

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	岐阜県2170102996		
法人名	社会福祉法人三輪会		
事業所名	グループホーム桜の実		
所在地	岐阜市世保北33番地		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=2170102996-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は「居心地の良い居場所」を基本理念としており、個々の利用者の加齢による心身の低下を見逃すことなく観察を行い、尊厳と愛情をもって支援を行っています。フロアの中心には中庭があり、皆さんが集うリビングは明るく開放的な空間となっています。リビング、中庭に面した談話コーナー、居室など希望される場所で自由に過ごされています。各入居者の望まれる生活が提供できるよう、普段から関わりの時間を多くもつよう努めています。そのツールとして24時間支援シートやマイウェイシートも活用しています。地域の行事への参加や、地域の方々に当施設の行事や防災訓練などに参加していただき交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「事業実績報告書」を作成し、法人ホームページに情報開示を行っている。利用者の嗜好アンケート調査も行い、豊かな食生活に反映させている。会議と併せて、職員のスキルアップを図れるよう、テーマを設定した研修も実施している。年間行事の一つとして、大相撲名古屋場所の際に、大嶽部屋の力士2名が毎年訪れており、四股(シコ)を踏む姿を披露している。居心地のよい生活環境に加え、利用者が戸外に出かけるプログラムも充実している。管理者・職員は、利用者が自分らしく、最期まで生き生きと生活ができるよう、熱意と愛情で支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が常に理念の意義を踏まえ、利用者本位の援助提供を意識するよう、スタッフルーム及び掲示板に運営規定を掲示している。更に意識の働きかけとして、会議等でも事業理念を話し合い、常に理念の実践に努めている。新規職員に対しても理念の浸透を徹底している。	理念は、目立つ位置に掲示し、利用者支援に反映できているのか、常に振り返り、職員間で共有している。そして、利用者の自立を支え、穏やかに居心地のよい生活が送れるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、各種行事・祭礼等や清掃活動・防災訓練に参加。施設の行事にも地域より参加を得ている。更に地域の中高生との交流会や職場体験を定期的に受け入れている。地域が開催するいきいきサロンへも参加して、地域の高齢者との交流を図っている。	自治会員であり、区の諸行事に参加し、地元中高生の職場体験の受け入れを継続している。文化祭には、利用者の作品を出展し、敬老会にも出かけている。地域の「いきいきサロン」では、地元の高齢者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会において、日々の生活の中での支援の様子を紹介することで、地域に向けた認知症に対する理解を深めていく。また災害時の緊急避難施設として、地域の高齢者の受け入れ体制の整備の告知をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議で、地域の民生委員・老人クラブ会長・入居者家族に、施設の実績報告・利用者の生活状況報告、施設行事参加時にも意見交換を行い、会議の指針に取り入れている。特に行事には地域の自治会長にも参加していただいている。	会議では、事業実績表を提示し、利用者の暮らしの様子を報告している。災害対策やレクリエーションの内容、ボランティアの受け入れ状況、いきいきサロン参加などでも意見を交換し、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岐阜市介護保険課及び生活福祉課の担当者と随時連携を取り、入居者により有益となるサービスが提供できるよう、密に連絡・相談をし、協力関係を築いている。	市の担当者とは、日頃から連携が出来ている。運営の実情を報告したり、介護認定審査期限の問い合わせ、運営推進会議の議事録も届けている。困難事例は、随時、電話でも聴ける関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全職員に身体拘束についての理解が十分図られている。現在拘束の場面がなく、実例がない。ケアスタッフ会議や職員会議において、全職員に身体拘束に対する正しい知識を深めている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。認知症の症状から起こる行為についても、家族の同意を得ながら工夫し、正しい対応を行うよう努めている。職員会議の中で、身体拘束についての正しい知識を定期的に学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に高齢者虐待防止について周知徹底が図られている。また職員会議にて高齢者の権利擁護についての研修を受けている。ケアスタッフ会議でも権利擁護に付いての勉強会を行っている。		

岐阜県 グループホーム檜の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において講師による制度についての研修を実施し、十分な周知と理解をしている。また必要に応じ制度についての説明を、家族・利用者にも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前面接時に重要事項説明書により十分な事前説明を行っている。契約時にも契約書に記載の通り説明を行い、不明点を解消の上入居に至っている。また個人情報に関する同意書についても説明を行い、同意を得ている。解約時の不安等についても同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理制度の案内と掲示と意見箱を各フロアに設置し、制度導入を入居時に本人・家族に説明し、意見があれば対応している。その他の要望については、面会時や電話連絡時に承り、極力希望に添うように尽力している。	利用者に嗜好アンケートを行い、結果を家族にも報告している。家族の意見や要望は、面会時や運営推進会議でも聴いている。連絡方法の仕方については、相談しながら改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議及び月2回のケアスタッフ会議にて、問題提起の場を持ち意見交換の結果を反映出来る体制を整えている。またケース会議時にも職員の意見を聞き出し、より円滑な運営を目指している。	管理者は、定例会議で職員の意見・提案を聴いている。今年の夏、台風で停電被害があり、職員と共に話し合いながら、改善策を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に心身の健康を提唱し、職員が働きやすい環境で就業できるよう配慮をしている。また福利厚生にも力をいれ、楽しみの中で強い結束力が持てるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者により職員の心得・サービスのあり方等の説明を実施。職員会議の場において、専門講師による講習を行い、職員のサービスの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが開催するケア会議に参加し、他のグループホームの職員や介護支援専門員との意見交換等交流の機会を持っている。また、月に一度同法人内の他事業所と情報交換や相談等交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接時に本人・家族より、生活歴・主訴・要望をうかがい、意向を取り込み援助計画書及び24時間支援シートを作成している。またマイウェイシートを活用することで、全職員が入居に至るまでのより細かな様子の把握が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始直後には、家族とは特に連絡を密にし、施設への要望や感じている不安等を含み取り、援助内容にもその意向を反映している。随時利用者の暮らしの様子を報告することにより、家族との信頼関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・介護支援専門員・介護職員にて、本人の状況に合わせた支援や入居の必要性を検討する。また入居までの待機状況によって、当施設での早急な対応が難しい場合には、他サービスの紹介等も積極的に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを念頭に置いた上で、生活歴や日々の会話の中からもご本人をより理解出来るよう、気づきを記録し職員間で共有しながら援助内容に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に日々の様子の報告を行い、離れていても大切なご家族が支えて下さっていると、ご本人との会話の中でも常に話題としていることをご家族に伝えている。また、ご家族からの要望や意見もお聞きし、ご本人への援助に活かすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に再度訪れていただけるような雰囲気作りに努めている。外出ドライブの際に自宅近くを通ったり、入居前の馴染みのスーパーへの買い物に出掛けている。ご本人が希望されるお墓参りへは、ご家族にお伝えし、希望が叶うよう支援している。	本人の生活歴から、馴染みの人や場を把握している。雰囲気づくりに努め、訪問者には再訪を促している。馴染みの場には、ドライブを兼ねて出かけ、毎週金曜日は買い物の日と定め、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮して食卓席の席替えを随時行ったり、コミュニケーションを図る事が難しい方が孤立されないよう、職員が間に入り関係作りが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供書を用いて次に利用する事業所等に入居申込の情報提供をしている。当施設退居後も移動した施設、医療機関におとずれ交流を図ったり、ご家族からの相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中からご本人の思いや意向を汲み取り、実現に向けた援助を行っている。生活の中で徐々に希望される内容も変化していくため、会議や申し送りの場を活用し全職員が統一した対応が出来るようにしている。	利用者の生活歴や日々の会話の中で、思いを把握している。意思表示が困難な人は、問いかけの反応や表情から汲み取っている。把握した思いは、職員間で共有し、居心地のよい暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接の場でご本人のこれまでの生活歴を確認している。入居後もご本人やご家族との会話を通じ、より深くご本人の生活リズムや大事にされていることを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気に掛かる内容については職員間で情報を共有し、対応を決定している。日毎の様子は各入居者様の体調や気分によって変化するため、柔軟な対応を心掛け、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議・申し送り時に職員間で随時モニタリングを行い、期間毎のみならず随時本人・家族・主治医と相談し、必要に応じ計画の見直しをしている。	モニタリングは随時行い、本人・家族の意向と、関係者の意見を踏まえて、介護計画を作成している。疾患がある場合は、適切に対処し、健康と清潔を保ちながら、穏やかな生活が送れるよう、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子については個人ケース記録に記載し、変化や気になる内容については特に細かく記録するように努めている。記録した内容を会議の場で検討しその後の援助方針決定に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外にも通院の引率を家族に代わって行う、高齢や遠方の家族に代わり買い物代行などを行っている。過去には信仰する宗教の集会への送迎をしたこともあり、ニーズがあれば可能な限り柔軟に対応する体制をとっている。		

岐阜県 グループホーム檜の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中高生や幼稚園児の年数回の訪問や、自治会行事やいきいきサロンに参加し、地域の方との交流を図っている。年末は地元老人クラブの方にしめ縄作りや餅つきに参加いただき、恒例行事となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療機関での受診を希望される方については、家族の協力を得て行っている。協力医への変更をされた方は月2回の往診を受けている。総合病院、整形外科、歯科、皮膚科、眼科等への受診は必要に応じて対応している。	個々にかかりつけ医を継続している。希望者は、協力医に変更し、同意書を交わしている。協力医療機関へは、通院を支援し、専門医への受診は家族が担っている。急変時の受診や搬送先は、入居時に確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調観察からいつもと違う様子については細かく申し送り書に記入し、全職員に情報の共有を図っている。又、主治医の往診時に報告や、随時電話にて相談をし、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に個人の情報提供を行い、入院先の医師、看護師・ソーシャルワーカーと密に連絡を取っている。又こまめに面会にも訪れ、状況把握に努めることで、早期退院を目指し、退院後のケアがスムーズに行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・家族・施設の三者にて話し合いの場を持ち、方針を決定する。緊急時の対応についても、主治医の指示を最優先する事を全職員に周知している。また「看取りに関する指針」を制定し、終末ケアが必要となった際には指針に基づいた対応を行う。	重度化・終末期の指針を定め、段階に応じて医師と関係者で方針を話し合っている。これまで実施しなかった看取りケアを、今年度から24時間対応の協力医と連携し、終末期ケアの体制を整え、支援に取り組んでいる。	職員が、終末期ケアに立ち合った時に受ける、精神的負担が軽減できるよう、医療職や経験者による継続的な学習を行い、職員の心のケアとサポートに取り組まれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	止血法及び手動式肺人工蘇生器、AEDの取り扱い講習を行っている。スタッフルーム内に緊急時対応マニュアルを設置し、全職員が緊急時に対応できるよう備えている。又緊急時職員連絡網を整備し、応援要請が可能な体制を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者・職員にて火災を想定した防火訓練を年3回、地震を想定した防災訓練を年2回に加え、本年度は岐阜県庁職員より水害時の対応についての講習を実施している。又マニュアルを基に適時に勉強会を行うことで、全職員が有事の事態にも迅速な対応が取れるように備えている。更に災害時には地域区長及び自治会長との相互協力支援が合意されている。	災害訓練は、防災管理規定に基づいて実施している。今年度は、台風による停電被害を体験し、有事にも迅速に対応できるよう話し合い、改善している。備蓄は、母体法人で確保し、地域との協力体制も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の管理・プライバシーの確保については会議や申し送りの場で全職員にその重要性を周知徹底している。敬語を基本とした言葉掛けや人格を尊重した対応に配慮し、入居者の尊厳を守っている。	人格の尊重とプライバシーの確保は、介護技術の研修科目として年間計画に取り入れている。言葉をかける時は敬語を基本とし、同じ目線で優しく語りかけながら、信頼関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の好みや希望に添えるように確認しながら声掛けをしている。自己決定がしやすいような言葉掛けを行い、ご本人の希望する生活をケース会議で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マイウェイシートを活用することで、生活習慣や意向を把握、個別ケアを実践しているが、健康や安全に配慮し、希望に添えない場合もある。新しい希望においても柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類の選択は自己決定を基本とし、困難な方はその都度本人と相談し決定している。希望時には出張理美容院を手配したり、一緒に衣料品店に出掛け、好みの衣類を購入出来る機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を生かし調理や準備・片付けに参加していただいている。可能な限り職員も一緒に食事を摂っている。年3回の嗜好アンケートを実施し意向が反映されている。	嗜好アンケートの結果を踏まえて食事内容に反映させ、食べる楽しみと食欲増進につなげている。利用者は、出来る人が準備や片づけに関わり、職員も同じ食事を摂りながら、楽しい雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立に基づき、個々の状況に合わせ食事形態を変更している。水分摂取においては水分摂取目標表を作成し、個々に必要な水分を摂取していただけるように支援している。ご本人の嗜好や食事時間など出来る限り尊重し、食べる喜びを感じていただけるように食事環境にも配慮し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後歯磨きを促し必要な方には職員により介助を行い、口腔衛生に努めている。口腔内の問題が生じた場合には速やかに訪問歯科診療の受診手配を行う。又、歯科衛生士による口腔衛生指導も受けている。職員会議にて口腔ケアの研修も行っている。		

岐阜県 グループホーム檜の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを掴み、トイレ誘導や声掛けを行っている。排泄意を訴えられない方も排泄パターンに沿ったトイレ誘導を行う事で汚染される事は少なくなっている。	個々の排泄パターンに沿って、トイレへ誘導し、排泄の自立につなげている。結果、おむつの費用削減にも成果を上げている。夜間、睡眠が確保できるよう、おむつを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居時に便秘症の有無を確認し、便秘予防の為に嗜好品がある場合には取り入れている。また、主治医と相談しながら排便に効果的な飲食物や身体を動かす機会を増やすなどの対応を実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日に3名の入浴とし、本人のペースに合わせ、拒否の場合は時間や日を変えたり、全身清拭対応をしている。拒否の理由の情報共有を図り、本人にとって快適な入浴環境の提供を図っている。介助者の性別も希望に沿うように配慮している。	入浴は、本人の希望を受け入れ、柔軟に支援をしている。拒む人には無理強いせず、その理由を受け止め、促し方を工夫しながら、職員間で共有している。介助者の相性にも配慮をしながら、重度者には清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に安心して休んで頂ける環境作りに努めている。また、日中の休息時間を各入居者様の体力に合わせることで昼夜逆転となれないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書はすぐに確認できる場所に保管し、薬の目的・副作用等確認している。また投薬内容の変更の際には薬剤師より説明を受け、職員に周知徹底している。またご家族にも変更及び経過観察について報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸・カラオケ・習字・手芸・塗り絵・漢字計算ドリル・音楽番組の鑑賞等の余暇活動や、家事作業等、個々の生活歴や好み、能力に応じ支援している。嗜好品も本人の希望に沿って、主治医や家族の意見を踏まえた上で、楽しみとなるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩、花壇菜園作り、買い物や地域行事への参加などの外出機会を設けている。家族の協力が可能な方には、連絡を取り合い、家族の都合や本人の状態に合わせ、外出支援を行っている。	日頃は周辺を散歩し、毎週金曜日は、買い物の日と定例化している。いきいきサロンや幼稚園へも出かけ、年間行事では、花見や観光やナ、公園、文化祭、初詣、系列の施設訪問などの外出支援を行っている。	

岐阜県 グループホーム檜の実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方も、金銭管理を希望される方には、家族の了承を得た上で本人に少額の金銭をお渡しし、使用や所持を職員・家族の見守りの元支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご本人の希望により携帯電話や固定電話を所持されている方は、自由に外部と連絡を取られ、一人で難しい方には近くで見守り援助している。学生との交流会、イベント主催者への礼状など外部との繋がりを大切にして手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関には季節の花や季節行事の飾りなど設置している。お出かけの写真、行事の写真、入居者の方が作られた作品などを展示し、誰もが落ち着く事が出来る空間を提供している。	玄関や居間には、季節の花や観葉植物を飾っている。壁には、干支の折り紙作品や書画、記念写真などを掲示している。対面式キッチンにも生活感がある。広い廊下の一角には、ソファと利用者同士が語り合う場がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓席、畳コーナー、ソファー又、リビングから離れた所に談話コーナーを設け、好きな場所で過ごす事が出来る空間を作っている。カラオケなど共通の趣味があれば、声を掛け、サークル活動も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇など持ち込んでいただき、本人の過ごしやすい環境を整えている。家族との写真や好きな芸能人のポスターを貼り、自分の部屋を作り上げられる事に協力している。	居室には、エアコンや押し入れ、換気扇も備えている。馴染みの家具や電化製品を自由に持ち込むことができ、仏壇の持ち込みもある。芸能人のポスターやぬいぐるみを飾り、居心地のよい居室環境づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室に表札を掲げ、よりわかりやすくする為にトイレや自室扉に張り紙をしている。環境面においては職員の気付きを大切に危険な場所などはヒヤリハットシートを用い、全職員が把握し、改善しながら、安心して暮らす事が出来る環境作りを行っている。		